

# 市民環境部会 会議録

（出席者） 委員：8名  
事務局：3名（戦略部会員：2名、政策推進課：1名）  
アドバイザー：1名  
ファシリテーター：1名

（会議の内容）

## 1. はじめに

資料1に基づき、第6回まちづくり市民会議（第5回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料2に基づき、第7回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

## 2. 報告事項

資料3に基づき、総合計画の改定状況について事務局から説明しました。

資料4に基づき、幸福度の設定について事務局から説明しました。

## 3. 検討事項

資料5に基づき、「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」「分野別の計画素案について」事務局から説明し、検討を行いました。（検討の内容は次ページ以降に掲載。）

## 4. アドバイザー総括（アドバイザー）

本日の会議についての総括を行っていただきました。（内容は次ページ以降に掲載。）

## 5. その他

今回の会議は全体会となるため、市民会議幹事のスケジュール調整により後日決定すること、全体会では市民会議幹事からの「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」の2つについて発表を行うことを報告しました。

各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

<報告事項について>

【委員】

幸福度の指標がなぜ必要なのか分からない。田原市は男女共同参画の指標で、愛知県でも下から10番目以内に入っている。良くない指標が出たから数値を向上させようという活動はしているのだろうか。そういう意味で指標とは何なのかよくわからない。指標作成の為には時間も税金もかかる。幸福度というのは、なんとなく流行りにのっているだけという気がする。

【委員】

指標化については、ただ点数をつけたいだけではないか。

【事務局】

今は指標化というのが、計画のなかでも重要になっている。しかし、指標のなかだけでは測りきれないものもある。それが重要になってきたというので現在、幸福度が注目度を浴びるようになったと考えている。

日本の場合、経済状況が向上しているのにも関わらず、幸福度が上がらないという研究結果もある。そのなかでまちの魅力の一つとして、幸福感の高いまちというのを田原のPRポイントとしたいと考えて幸福度を設けた。

【委員】

今回もそうだが、会議は最初から出来上がっているものに対して委員が質問されていく。幸福度に関しても前回初めて聞き、今回記載される前提で「幸福度についてどう思うか」としている。また、例えば、プロジェクト名も最初と現在のものでは、いつの間にか名前が異なっている。このように委員への説明なしに、事務局側がかたちをすでにつくりあげ、それに対して意見を聞こうとしているため、いくらか歪みが生じているように思う。

私は幸福度を指標に入れるのは問題ないと考えているが、説明なしに議題に入れているので「意味が分からない」「自分達が話してきたことはどういうことなのか」と考える部分がある。

【事務局】

私達も総合計画を策定するに当たり、どうしたら良いものになるのか模索しているので、スタート時と今で変わってきている部分がある。今までの総合計画は、何が重点的に置かれているかよくわからないというところもあった。そこでみなさんに集まっていただき、主要プロジェクトや項目の強弱の判定に協力してもらっている。説明不足の部分は申し訳ないと思う。

【委員】

サブテーマに関してはいつ頃からでてきたものなのか。

**【事務局】**

これは最近出てきたものである。8月の総合計画審議会が出たもので、元々決まっていたものではない。

**【委員】**

なぜ私が幸福度に疑問をもつのかというのは、言葉が非常に曖昧であり、曖昧なものが見出しにあることに不安を覚えるからである。暮らしやすさだと理解できる。例えば、ブータンの人たちが幸福度が高いと言われているが、日本人がブータンに行って幸福感を感じるかといったら、ほとんどの人はそうではないと思う。幸福度という言葉はそれくらい曖昧である。したがって、幸福度ではなく違う言葉を載せてもらいたいと考えている。

**【事務局】**

幸福度に関しては東京都の荒川区でも用いられている。しかし言葉に曖昧さがあるのも理解できる。他にも事務事業として数値的な目標を立てており、顧客満足度の位置づけのなかで指標のひとつとして幸福度は検討されていた。

**【委員】**

私も違和感がある。具体的に話を進めていても、次には抽象的な話になることがあり、ギャップを感じることもある。他の委員の方が言われていることに共感できる。

**【委員】**

私は幸福度という言葉は入れていくべきだと思う。今まで経済で走ってきたが、3.11で変わった。そのなかで生まれた言葉のようにも思うし、話題として活用するのは大いに結構だと考えている。

**【事務局】**

幸福度という言葉は良い点、悪い点、両面ある。この会議だけで決めることではなく、他の部会でも検討させてもらい、色々な方の意見を聞いて調整したいと思う。

**<主要プランについて>**

**【委員】**

今までの皆さんの意見を、大雑把かもしれないが参考にして出来たのが、この主要プランだろう。これを骨組みとして、枝葉をつくって進めていってほしい。

**【委員】**

いいと思う。

**【委員】**

いいと思う。

**【委員】**

いいと思う。

**【委員】**

このプランはどこから出てきたのか。今までの会議資料を振り返ると、第4回までの意見集約があり、そこで出てきた12の課題がある。しかし、このなかから主要プランに決まった5つを選定していこうという話は何もされていない。主要プランの一つである「エネルギーの地産地消」については、あまり出ていない。なぜ突然出てくるのか。ここが田原市の、この会議の最大の弱点だと考えている。

スタートの人口指標の部分でもそうだった。なぜ人口指標のことがこの会議で議論されるのか、何も報告されていない。突発的に出てくる。主要プランの一つひとつのことは大事なことであるが、話し合いの積み上げのなかで生まれてきたものではない。個人的には方向性がズレてきているように感じる。この主要プランは第4回の会議の課題からどういうふうに出てきたのか。

**【事務局】**

大きくは皆さんが第4回、5回会議で話してもらった課題、問題からはズレていない内容だと考えている。ただ、主要プラン選定のプロセスの説明をしっかりと行えていなかったことは申し訳なかったと思っている。

**【委員】**

また、大綱のところにある「みんなで作る美しく暮らしやすいまちづくり」というのは、どこから出てきたのか。どこを探しても出ていない。今回、市民環境部会では、突然これを目標にしている。このことが全く理解できない。

「みんなで作る美しく暮らしやすいまちづくり」という言葉自体は悪くはない。しかし、このことに対して話合いはしていない。私は一番初めに「この市民環境分野の、この会での目的は何ですか」と質問をした。しかし、ずっと答えてもらえなかった。第3回、4回で自分なりに考えた市民環境分野の目的を提案してきているが、それについては触れられることなかった。

**【事務局】**

今回の「みんなで作る美しく暮らしやすいまちづくり」という文言については、この会で議論されたことではなく、事務局のなかで皆さんの意見等をふまえて決めさせてもらったものである。

**【委員】**

「暮らしやすい」という言葉は市民環境という点ですべてを網羅するので、いいのではないかなと思う。ただ「美しく」という部分がひっかかる。本来はこの文言を、みんなで決めるべきではないだろうか。

**【委員】**

気になるところがある。感覚的なものかもしれないが、文言の「横断的な取り組みを進めます。」などの断定、「～します。」という部分である。私は「進みます。」という表現を見たとき、進んでくださいと思ってしまう。「進めたい」から、こうしようという気持ちで私はいるのだが「進めます。」だと、もう決まったことのような感じがしてしまう。この断定の文末に関してついていけないところがあった。

**【事務局】**

計画では「～します。」という書き方が一般的である。

先程の話でもあったが、「こんなこと話してなかった」「もう少し主旨が違った」「違う目的を指して発言をしていた」というものがあれば付け足していきたいと考えている。市民会議からの意見として外したいと考えているものがあれば教えてもらいたい。

**【委員】**

「行動と連携で暮らしやすいまち」というのはどうか。行動と連携というのが大切だと思った。

**【委員】**

「連携」は、個々が努力すれば出来ることであり、「連携」という言葉を入れることによって縛られてしまう感覚がある。したがって入れないほうが良いと思う。「行動」というのは「つくる」ということで、難しい言葉を使わなくてもいいのではないだろうか。ひらがなだから価値があるように思う。堅い言葉を入れないほうが良いと考えている。

**【委員】**

サブタイトルで「安心・安全なまちづくり」があるが、これはこれでいいと思う。「市民活動の裾野を広げる」というなかで人を求めるだけでなく活発なコミュニティ活動の内容なども取り入れたほうが良いように思う。また、資料3の最後のページ「エネルギーの地産地消」に誤字があるのではないだろうか。

**【委員】**

私はスローガンには、これくらい簡単な言葉のほうが良いと思っている。「暮らしやすいまち」が良い。

主要プラン5つは、最初の総合計画でつくった環境部分の課題17項目とどのような関係なのか。初めにつくった計画を一切外してこの5つにするのか。

**【事務局】**

これらの課題は基本計画の各施策に取り込んでいく予定である。

**【委員】**

今までの会議で話したことが、この案に網羅されているので、これが柱となることでいいのではないかと思う。月 1 回、2 時間の会議だけなので、突然新しい項目が生じることも仕方のないことのように思う。個人的には事務局が資料だけでなく会議も含めてつくり上げていくのはしょうがないと感じている。私達の発言した市民環境分野の課題が、枝葉としてどう動くかということに着目している。

**【事務局】**

いくつか意見があったように、5 つの主要プランの出し方について問題があったというのは理解している。ただ、総論としては大きく間違いはないと受け止めている。出し方に問題はあったが「みんなでつくる美しく暮らしやすいまち」というのは内容として問題ないと考えている。

**<市民協働モデル事業>**

**【委員】**

事前にモデル事業の改正案を作成してきた。

**【事務局】**

清掃活動は環境学習の一環のひとつである。また、よりよい環境づくりという面で以前岩崎先生が言われたポジティブということも、キーワードのひとつである。清掃活動にあたってプレイヤーの拡大を強く入れてもいいとも考えている。

**【委員】**

事務局と鈴木委員の意見は似たようなことを言っており、この場は事務局にここを直せというような場ではないと思っている。

**【委員】**

前回の最後で「田原のよさ知り、良さを生かすプロジェクト」となった。先生が述べることはやはり学校の先生らしく学校教育ということに重きが置かれている。先生の表現が一般市民には単純に「清掃する」「キレイにしたい」となり、先生が意図しているところが薄まってしまう可能性があるように思う。そこが心配である。

**【委員】**

実践的、具体的なところがきちんと明記されるべきである。

**【委員】**

目指す姿の文末が「清掃活動が活発になっています」としている。しかし、本来は清掃活動がいない、ごみをすてない、ながさない、そのような環境を一人ひとりが守っていくべきだと考えている。結論が「清掃活動が活発になっています」だと、田原の良さを知り、良さを活かすプロジェクトの長所が消えてしまっているように思う。

**【委員】**

諸橋委員と同じで、「清掃活動が活発になっています」という表現はあまりよくないのではないだろうか。

**【委員】**

私は清掃活動という言葉を目にすると「あ～あ」と思ってしまう。清掃活動という言葉が好きではなく、「楽しくゴミ拾い」等、遊び的なものが入っているほうが気持ちが楽になる。私は鈴木委員が出してくれたもののほうがいいと思った。言葉は聞いた瞬間に感じるものがある。見た瞬間に気持ちが上がるような文面であったほうが市民にとってよいのではないかと思う。

**【委員】**

ゴミの出ないような社会が一番いい。しかし現実にはゴミが出てきているので、このような問題が生じる。現在のありのままをあらわすのなら、記載されている「自然環境保全の意識が広く～清掃活動が活発になっています。」という文言になるのではないだろうか。

**【委員】**

現状・課題で「多くのゴミが捨てられている」という部分がある。私は、このような表現も入れていいと考えている。実際に案が出来たとき、この部分を目にしたら「汚いのか」と感じ、「きれいにしよう」と考える者も出てくると思う。現状を明確にするために、汚いという表現を記載するのもいいのではないか。

**【事務局】**

岩崎先生が前回発言された「清掃活動を行いながら、環境学習を行う」、それをよりポジティブにとらえられるように、この案を工夫して記載した。総合計画は市民の皆さんが見て分かりやすいものでなければならない。そういう意味で、清掃活動という言葉を使わないと市民の方には伝わりにくいように思う。すべての意見を反映できるわけではないが、みなさんからの意見を集約して修正等をしていきたいと思う。

まとめとして、目指す姿の部分はタイトル・プロジェクト名に合わせて変えるべきというのが共通事項として挙げた。また具体的な手段である清掃活動の表現をどれくらい出していいのか、という部分は意見が分かっていた。こちらは再度調整したいと考えている。戦略プロジェクトのひらがな表記やゴミという言葉の記載に関しては、鈴木委員が出してくれたようなポジティブさを入れて修正したいと考えている。

## <分野施策（案）について>

### 【委員】

施策 1-10 に記載されてあるリサイクルプラザは閉まるということはないか。そのような話を聞いたのだが。

### 【事務局】

9 月末をもって休止という形を考えている。方向性としては、民間の力を活用して何かを行えたらいいと考え、現在検討している。

### 【委員】

民間の競合店の影響等もあり、リサイクルプラザの利用は少なかったとお聞きした。ここが閉まるというのは、とても大きなことである。つまり、ゴミを出さないで工夫しようとする人が少数になってきているのではないだろうか。

このような状況になる前に、広報等を通して市民に意見を求めてもよかったのではないか。私の目に入らなっただけなのか、実際何もしていないのかは分からないが、あそこは場所も悪いので知らない方が多かったのではないだろうか。

### 【委員】

リサイクルプラザの利用に関しては、個人のアンテナの高さによるところもあると思う。行政の取り組みだけの問題にしてはいけないと思う。

### 【委員】

アンテナの高さの問題もあると思うが、発信をしないと分からないのではないだろうか。リサイクルプラザが閉まるというのは、施策 1-10 「資源循環の推進」と矛盾するように思う。

### 【事務局】

リサイクルプラザに関しては整理しなければならないと考えている。常設以外の 3 R 活動に関しても市として実行していかなければならない。そのような取り組みは担当課が中心となって検討している。

### 【委員】

以前、私はリサイクルプラザにほとんど行ったことがなく、機会があったら利用しようと考えていた。閉鎖に関しても友人から教えてもらった。年中利用するところではないので、閉まるということを PR したほうがよいのではないかと考えている。



## <アドバイザー総括>

### 【アドバイザー】

今日、2点感じたことがあった。1つめが市民協働事業モデルに関すること、2つめが全体に関わることである。

前者に関して、愛知県知事、滋賀県知事が三河湾の環境プロジェクトで対談した新聞記事を見た。滋賀県知事の嘉田さんという方はもともと環境社会学者で生活環境主義を唱えてきた方である。生活環境主義は開発主義でもなく環境保全主義でもない、生活の中で環境を見つめ、そこに暮らしてきた住民の知恵の部分を重視している考え方のことで、琵琶湖博物館で行われた琵琶湖のホタルダスという活動がその一環としてあげることが出来る。

「田原の良さを知り、良さを活かすプロジェクト」を通して、同じ事がここ田原市でも出来るのではないかと感じている。自然環境がいいということではなくて、これまでの長い歴史のなかでどのようなかたちで田原の人たちが自然環境と付き合ってきたのか、その知恵の部分を学ぶことがとても重要だと考えている。清掃活動が環境学習へと広がり、知恵について考える部分が出てくると可能性のあるプロジェクトになると感じた。学校教育の立場と言われてしまうかもしれないが、これが感じたことの1つめである。

2つめに関してだが、このような会議では言うだけで終わってしまうことがある。ここで出された提案が計画・構想として文字化してしまうと硬直化してしまい、それ以上関わる事ができない、となりえる。PDCAサイクルが出てきたが、これは行政効率の話だけではない。いかに市民がこのようなプロジェクトに関わり続けるのか、市民の継続性がとても大切だと考えている。「まちづくり」の言葉に変わって今、「まちそだて」という言葉が使われるようになっている。つくるとするのは、つくったらおしまい、もちろんあとで修復することもあるが…。一方、育てるとするのは関わり続けるというニュアンスがある。固定化、硬直化するのではなく関わり続ける、そのような仕組みをどうやってつくるのが、とても重要なことだと考えている。

幸福度の話が出てきたが、かつて豊かさ指標というものがあった。これは10年以上前に尻すぼみで終わってしまった。豊かさ指標は、経済企画庁が作成し、経済指標だけでなく住みやすさなど色々な指標を取り込む形で豊かさをあらわす指標であった。ところが一度指標化したものが固定化してしまい、例えば埼玉県が毎年B評価となり、埼玉県が経済企画庁に文句を言った事態もあった。豊かさ指標をみると、何故このような項目があるのかというものもあった。一例ではカラオケボックスの数などである。当然、この項目が豊かさとどういう関係があるのか分からない。このように、一度つくられた指標が固定化されてしまう、硬直されてしまうと問題が生じるのは避けられない。

それをいかに変えていくか、柔軟性をもつことができるのかがとても大切だと考えている。PDCAでいえばCとAの部分「チェック」と「アクション」。これを市民会議だけでなく、市民として皆が意識できるようになることが重要になってくると思っている。